



成果指標				
成果指標	飲料水供給事業繰出金÷飲料水供給施設特別会計歳入合計			
指標設定の考え方	飲料水供給施設特別会計事業費における独立採算の割合を数値化することにより費用対効果を常に意識する事務の遂行が可能となる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	0.6	0.6	0.6	0
実績	0.58	0.52	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	飲料水供給施設は、中山間地域に点在しており、また、小規模で老朽化した施設が大半であり、維持管理に係る経費もかかっている。水道料金の収入のみでは、経営は賅われておらず、一般会計からの繰入にも頼らざる負えない状況である。従って、今後は、飲料水供給施設事業の事務の効率化やさらなる経費削減に努め、実現する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	飲料水供給施設は、中山地域の4地域に点在し、経年劣化により維持管理に係る経費も増加傾向にある。一方で水道料金収入は、人口減少等により将来においても増収が見込めない状況であり、水道料金のみでは、経営は賅えておらず、一般会計からの繰入の依存は今後も続くものと考えている。したがって、事業の事務の効率化や更なる経費削減に努めるとともに、水道料金の見直しや上水道への経営統合も視野に入れて検討し、一般会計からの繰入を少しでも減らせるよう財政計画を見直す必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題